

令和7年6月13日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の（+）は多発要因、（-）は少発要因であることを示す。また、【 】内の数値は左側が5月下旬～6月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値（過去10年の平均値）を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ（※）の「総合防除の内容」を参照するとともに、2ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

千葉県総合防除計画（令和6年3月版）



作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (5月下旬～6月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イネ	いもち病 (葉いもち)	やや少	発病株率：並【0.00%/0.03%】 気象予報：気温高（-）降水量並か少（-）	17
	紋枯病	やや多	発病株率：並【0.00%/0.00%】 前年8月発病株率：やや多【11.20%/6.67%】（+） 気象予報：気温高（+）	19
	イネクロカメムシ	並	5月予察灯誘殺数：やや少【8.8頭/26.5頭】（-） 成幼虫寄生株率：並【0.40%/0.43%】 気象予報：気温高（+）	-
	ヒメトビウンカ	並	5月予察灯誘殺数：並【0.0頭/0.1頭】 20回振りすくい取り成幼虫数：並【0.42頭/0.60頭】 気象予報：気温高（+）	21
	セジロウンカ	やや多	5月予察灯誘殺数：並【0.0頭/0.0頭】 成幼虫寄生株率：並【0.00%/0.00%】 20回振りすくい取り成幼虫数：やや多【0.04頭/0.02頭】（+） 気象予報：気温高（+）	20
スイカ	うどんこ病	並	発病葉率：並【2.40%/3.96%】 気象予報：降水量並か少（+）日照時間並か多（-）	-
	アブラムシ類	やや少	寄生葉率：少【0.80%/5.60%】（-） 気象予報：気温高（+）降水量並か少（+）	41
	ハダニ類	並	寄生葉率：やや少【2.20%/5.18%】（-） 気象予報：気温高（+）降水量並か少（+）	-
サトイモ	アブラムシ類	多	成幼虫寄生葉率：多【46.67%/32.71%】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並か少（+）	42
	ハダニ類	やや多	成虫寄生葉率：並【12.00%/11.47%】 気象予報：気温高（+）降水量並か少（+）	-

作物名	病虫害名	予想発生量	予報の根拠 (5月下旬～6月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多	幼虫寄生株率(サトイモ) : 多【0.53%/0.00%】(+) 寄生幼虫数(サツマイモ) : 並【0.00頭/0.00頭】 5月フェロモントラップ誘殺数 : やや多【3.48頭/2.22頭】(+) 気象予報 : 気温高(+) 降水量並か少(+)	46
ナシ	黒星病	並	発病葉率 : 並【0.39%/0.96%】 発病果率 : 並【0.21%/0.76%】 気象予報 : 降水量並か少(-)	24
	シンクイムシ類	並	被害果率 : 並【0.00%/0.00%】 5月フェロモントラップ誘殺数 : 並【0.63頭/0.75頭】 気象予報 : 気温高(+) 降水量並か少(+)	25
	ハマキムシ類	多	被害葉率 : 並【0.03%/0.06%】 被害果率 : 並【0.00%/0.00%】 5月フェロモントラップ誘殺数 : 多【4.23頭/2.14頭】(+) 気象予報 : 気温高(+) 降水量並か少(+)	26
	アブラムシ類	並	寄生新梢率 : 並【0.58%/3.22%】 気象予報 : 気温高(+) 降水量並か少(+)	24
温州ミカン	そうか病	多	発病葉率 : 多【5.80%/0.96%】(+) 気象予報 : 気温高(+) 降水量並か少(-)	26
	ミカンハダニ	やや多	成虫寄生葉率 : 並【4.60%/5.92%】 気象予報 : 気温高(+) 降水量並か少(+)	28
ビワ	灰斑病	やや少	発病葉率 : やや少【0.50%/2.28%】(-) 気象予報 : 気温高(+) 降水量並か少(-)	-
果樹共通	カメムシ類	並	被害果率(ナシ) : やや多【0.03%/0.01%】(+) 5月フェロモントラップ誘殺数 : やや少【1.57頭/4.91頭】(-) 5月予察灯誘殺数 : 並【6.8頭/14.0頭】 気象予報 : 気温高(+)	28

* 1 予察灯誘殺数 : 1か月30日当たりの誘殺数

* 2 フェロモントラップ誘殺数 : 1日当たりの誘殺数

1 防除に関する措置(共通)

- (1) 病虫害は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病虫害の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

2 個々の病虫害に関する防除上の注意事項

- (1) うどんこ病(スイカ)

令和6年度病虫害発生予報第1号P3「これから注意を要する病虫害」も参照する。



- (2) ハスモンヨトウ(野菜共通)

令和6年度病虫害発生予報第7号P4「これから注意を要する病虫害」も参照する。



- (3) カメムシ類(果樹共通)

令和7年版農作物病虫害雑草防除指針「(2) 共通防除 ケ 果樹カメムシ類の防除」も参照する。



Ⅱ これから注意を要する病害虫

イネカメムシ

イネカメムシ（写真１）は、水稻の籾を加害する斑点米カメムシ類の一種である。本虫は、開花期～乳熟期の玄米基部を加害する傾向が強く、他の斑点米カメムシ類より、不稔被害（写真２）を発生させやすいため、直接的な減収被害が発生しやすい。

本虫は、雑草地を生息地とせず、越冬場所（林の落葉下等）から離脱後、早生品種の出穂始め～出穂期（７月上中旬頃）にかけて水田に飛来するため、出穂前の耕種防除が困難である。また、本虫は、周辺で出穂した水田に順次飛来し、加害する。

県内３地点（千葉市・香取市・南房総市）の予察灯において、昨年度はイネカメムシが例年と比較して多く誘殺された。このことから、今年度は越冬世代成虫の発生量が多いと予想されるため、注意が必要である。

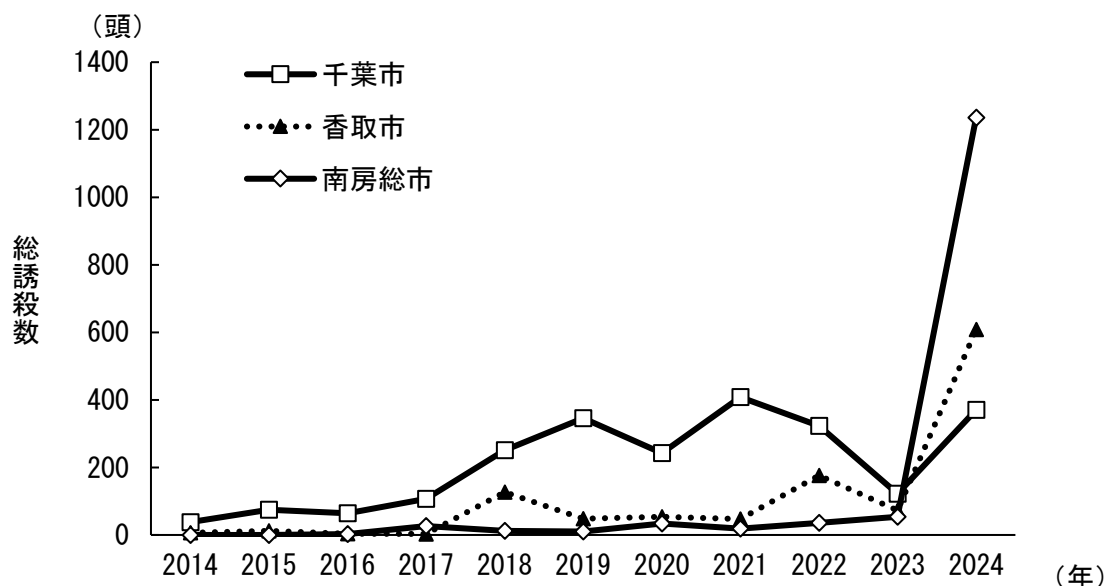


図 水稻予察灯におけるイネカメムシの総誘殺数

（地点：千葉市・香取市・南房総市、期間：４～９月）



写真１ イネカメムシ成虫・幼虫



写真２ 加害された被害穂（青立ちした穂）

〈防除対策〉

- 1 本種による不稔発生防止を目的として、成虫が侵入する出穂始め～出穂期（出穂直後から4～5割の穂が出穂した時期）を目安に薬剤散布を行う。また、斑点米発生防止を目的として、他の斑点米カメムシ類の防除適期である出穂期15日後を目安に薬剤散布を行う。
- 2 イネカメムシの防除にはエチプロール剤（2 B）、ジノテフラン剤（4 A）が有効とされている。また、薬剤への感受性低下を防ぐため、同一成分の連用は避ける。
- 3 周囲よりも出穂の早い水田や特に遅い水田は、集中的に加害される可能性があるため、個別防除を行う。
- 4 地域全体でイネカメムシの密度を下げるため、飼料用米でも適切に防除を実施する。

表 イネカメムシに対する主な防除薬剤（令和7年6月1日現在）

I R A C コード ※1	薬剤名	希釈倍数・ 使用量	使用時期	使用回数 ※2
1 B	スミチオン乳剤	1,000 倍	収穫 21 日前まで	2 回以内
2 B	キラップフロアブル	1,000～2,000 倍	収穫 14 日前まで	2 回以内
	キラップ粒剤	3 kg/10 a		
3 A	トレボン乳剤	2,000 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内
4 A	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	2,000 倍	収穫 7 日前まで	3 回以内
	スタークル液剤 10	1,000 倍		

※1 I R A Cコード：殺虫剤の作用機構の分類を表すものである。

1 B：有機リン系

2 B：フェニルピラゾール系

3 A：合成ピレスロイド系

4 A：ネオニコチノイド系

※2 薬剤名が異なっても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。また、近接ほ場の栽培作物の収穫時期と散布時期が重なる恐れがある場合は、散布を控える。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

ナシ 黒星病

ナシ黒星病は、りん片、新梢、葉、葉柄、果実に黒いすすが付いたような病斑（写真１、２）を生じる病害である。感染すると落葉や裂果（写真３）・落果を引き起こし、収量が減少する。湿度が高い環境で繁殖しやすく、特に雨の多い季節に発生が増加する。

県内33か所で実施している巡回調査では、５月の発病葉率は0.39%（平年値0.96%）、発病果率は0.21%（平年値0.76%）でともに平年並の発生であった。

６月12日に発表された気象庁の１か月予報によると、関東甲信地方の降水量は平年並か少ない、気温は高い見込みである。黒星病は降雨等による一定の濡れ条件下で感染しやすく、15℃から25℃で活動が活発になり、30℃以上では停止する。主力品種である「幸水」の果実は、満開後55日頃から90日頃である６月中旬頃から７月中旬頃の梅雨時期に黒星病の感受性が高まる。この期間は感染リスクが高いため、早期発見及び適期防除が重要である。



写真１ 果実に生じた病斑



写真２ 葉柄に生じた病斑



写真３ 黒星病による裂果

〈防除対策〉

- 1 発病した葉や果実はほ場外へ持ち出し、土中深くに埋めるなどして伝染源にならないように適切に処分する。
- 2 表を参考に黒星病に登録のある薬剤で防除する。また、薬剤耐性菌の発達を防ぐため、ローテーション散布を行う。

表 ６月中旬以降の防除時期及び薬剤（令和７年６月１日現在）

時期	FRACコード※１	薬剤名	希釈倍率	注意事項
６月中旬	29	フロンサイドSC	2,000～2,500倍	オーソサイド水和剤80 による果実汚れが生じるので注意する。 まくぴか（5,000～10,000倍）は果実汚れ軽減を目的に用いる。泡立ち防止のため、最後に薬液に添加する。
６月下旬	11	ストロビードライフフロアブル	3,000倍	
	M4	オーソサイド水和剤80	600～1,000倍	
７月上旬	52	ミギワ20フロアブル	2,000～4,000倍	
	M7	ベルコートフロアブル	1,500倍	
７月中旬	7	カナメフロアブル	4,000～8,000倍	
	M4	オーソサイド水和剤80	600～1,000倍	

※１ FRACコードとは、殺菌剤の作用機構の分類を表すものである。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された収穫前日数・総使用回数等の使用基準を守り適正に使用する。

Ⅲ 参考資料

○ 主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稻・サツマイモ・スイカ・サトイモ：6月上旬、果樹：5月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ（県内全域）	いもち病	葉いもち発病株率	0.00	0.03	0.00	
	ばか苗病	発病株率（％）	0.00	0.08	0.06	
	紋枯病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	イネミズゾウムシ	被害度	14.09	8.73	10.94	
	イネゾウムシ	被害度	3.26	1.60	2.09	
	イネドロオイムシ	被害度	4.33	2.21	5.69	
	スクミリンゴガイ	被害株率（％）	4.74	2.04	5.03	
		1㎡当たり貝数	0.59	0.30	0.44	
		発生ほ場率（％）	20.00	15.34	20.00	
	セジロウンカ	25株当たり寄生成幼虫数	0.00	0.00	0.00	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.20	0.15	0.06	
	フタオビコヤガ	25株当たり寄生幼虫数	0.00	0.01	0.01	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.04	0.02	0.14	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.42	0.60	0.99	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.04	0.02	0.04	
サツマイモ (印旛、香取)	立枯病	発病株率（％）	0.00	0.00	0.00	
	イモキバガ	被害葉率（％）	0.00	0.42	0.20	
	ハスモンヨトウ	寄生幼虫数	0.00	0.00	0.00	
スイカ (山武、印旛)	つる枯病	発病葉率（％）	0.00	0.28	0.40	
	うどんこ病	発病葉率（％）	2.40	3.96	7.20	
		発病株率（％）	5.60	6.88	14.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率（％）	0.80	5.60	4.60	
	ハダニ類	成虫寄生葉率（％）	2.20	5.18	5.00	
サトイモ (山武、印旛、君津)	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率（％）	46.67	32.71	30.40	
		成幼虫寄生程度	17.60	8.80	8.33	
	ハダニ類	成虫寄生葉率（％）	12.00	11.47	16.53	
		成虫寄生程度	5.27	3.99	7.40	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率（％）	0.53	0.00	0.00	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率（％）	0.39	0.96	0.79	
	赤星病	発病葉率（％）	0.00	0.08	0.03	
	シンクイムシ類	被害果率（％）	0.00	0.00	0.00	
	ハマキムシ類	被害果率（％）	0.03	0.06	0.03	
	ハダニ類	成虫寄生葉率（％）	0.00	0.01	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率（％）	0.58	3.22	0.24	
	カメムシ類	被害果率（％）	0.03	0.01	0.00	
温州ミカン (安房)	そうか病	発病葉率（％）	5.80	0.96	3.40	
	かいよう病	発病葉率（％）	0.00	0.08	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率（％）	0.00	0.00	0.00	
	ミカンハダニ	成虫寄生葉率（％）	4.60	5.92	9.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率（％）	0.40	0.94	2.60	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率（％）	0.00	0.70	0.80	
	カメムシ類	払落虫数	0.00	0.08	0.00	
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率（％）	0.50	2.28	0.50	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率（％）	0.00	0.10	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.25	0.28	0.00	

トラップ月間誘殺数（５月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備 考 ＊
			本年値	平年値	前年値	
水稻予察灯	セジロウンカ	千葉	0.0	0.0	0.0	頭/月
		香取	0.0	0.0	0.0	
		安房	0.0	0.0	0.0	
	ヒメトビウンカ	千葉	0.0	0.0	0.0	
		香取	0.0	0.1	0.0	
		安房	0.0	0.3	1.9	
	ニカメイガ	千葉	54.8	3.1	19.4	
		香取	5.8	7.6	23.2	
		安房	6.8	0.8	5.8	
	イネクロカメムシ	千葉	5.2	43.2	7.7	
		香取	14.5	21.3	32.9	
		安房	6.8	16.4	10.6	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	2.9	0.8	1.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	0.0	1.2	1.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	3.9	12.1	3.9	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	0.09	0.37	0.35	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.16	0.18	0.18	
	コナガ	海匝	9.64	5.98	3.89	
	ハスモンヨトウ	県内全域	3.48	2.22	2.88	
	シロイチモジヨトウ	東葛飾、安房、君津	0.52	0.20	0.58	
	オオタバコガ	県内全域	1.41	0.84	1.97	
	タバコガ	県内全域	0.17	0.15	0.26	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	0.63	0.75	1.65	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.00	0.01	0.00	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	1.15	0.80	0.67	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	3.08	1.33	1.21	
チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	1.45	3.99	6.95	頭/日
	ツヤアオカメムシ	〃	0.10	0.54	1.85	
	クサギカメムシ	〃	0.03	0.39	0.75	
	マルボシヒラタヤドリバエ（天敵）	〃	0.24	0.88	1.49	

＊種類別の単位の違いに注意。月は30日当たりに補正。

○気象予報

6月12日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月の確率(%)

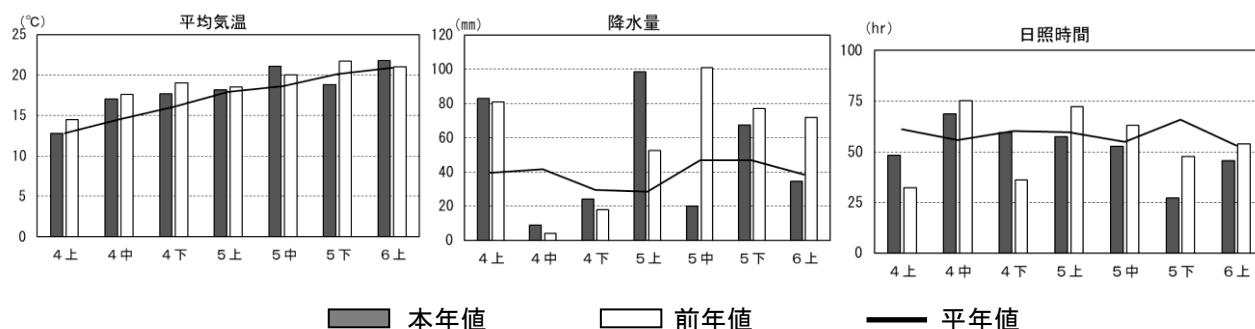
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	10	80
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月の各気象要素の平年値

(6月14日～7月13日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(℃)	23.6	21.5	23.1
降水量(mm)	164.7	172.0	228.2
日照時間(hr)	125.9	135.2	133.4



過去2か月の気象概況(アメダス千葉、銚子地方気象台提供)

6～8月は農薬危害防止月間です。

農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 無登録農薬の使用はできません。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いきれいなおきに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

- ・ 次回の発行予定は7月16日です。
なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

- ・ 県内で栽培される主要な農作物に発生する病害虫や雑草を
防除するための指針が千葉県HPで公開されています。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokubo/bojoshishin.html>

- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

